

凌辱



あやつ
操られ少女は

兵士達の慰なぐさみ物

UN



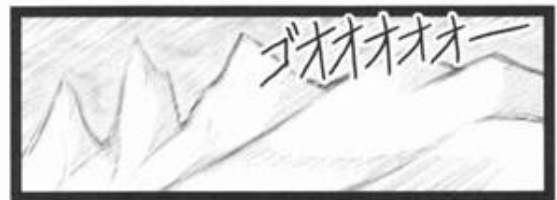
それまで
ここで
待つしか
ないな

明日の朝には
たぶん
止むだろう。

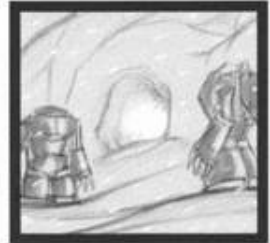


うー、さむ。
体の芯まで
冷えるな。

いつになったら
この吹雪は
止むんだよ。



パチパチ...



女？

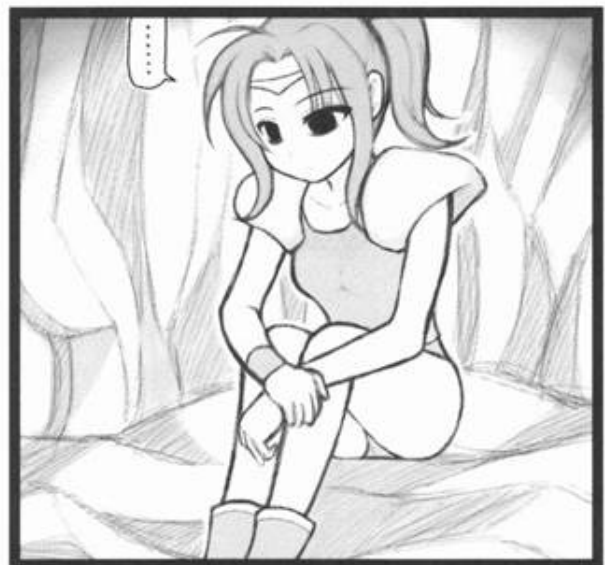
女なら一応
そこにも
いるが？



チツ。

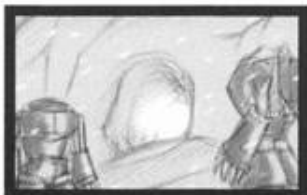
こういう時は
女でも抱いて

体を温める
のが一番
なんだが。



お、おい
まさかお前...

ホントに
手を出す気か？
兵士五十人を
一瞬で皆殺しに
した娘だぞ？



ただ
じつとしく
だけでいい。
わかったな？



いい
いいか
娘...

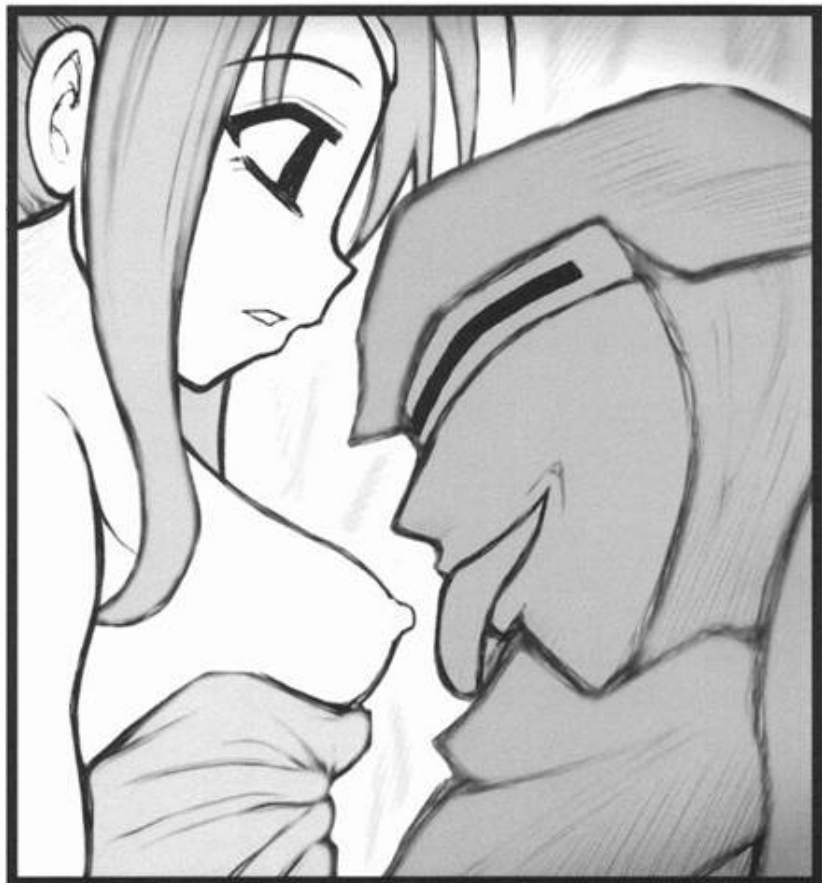
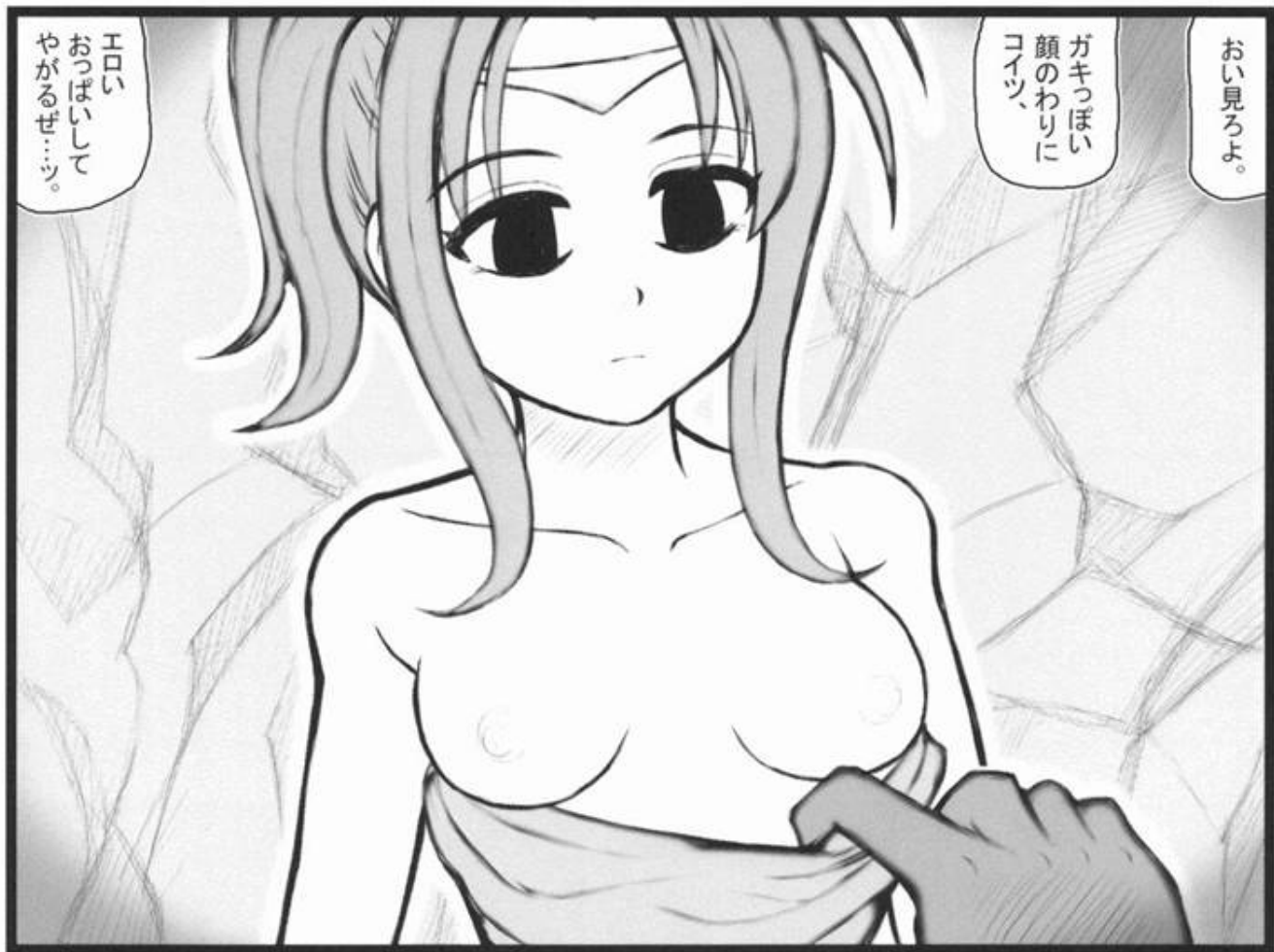
これから
俺の
する事は、
重要な任務の
うちの一つ
だからな。

絶対に
逆らうなよ。

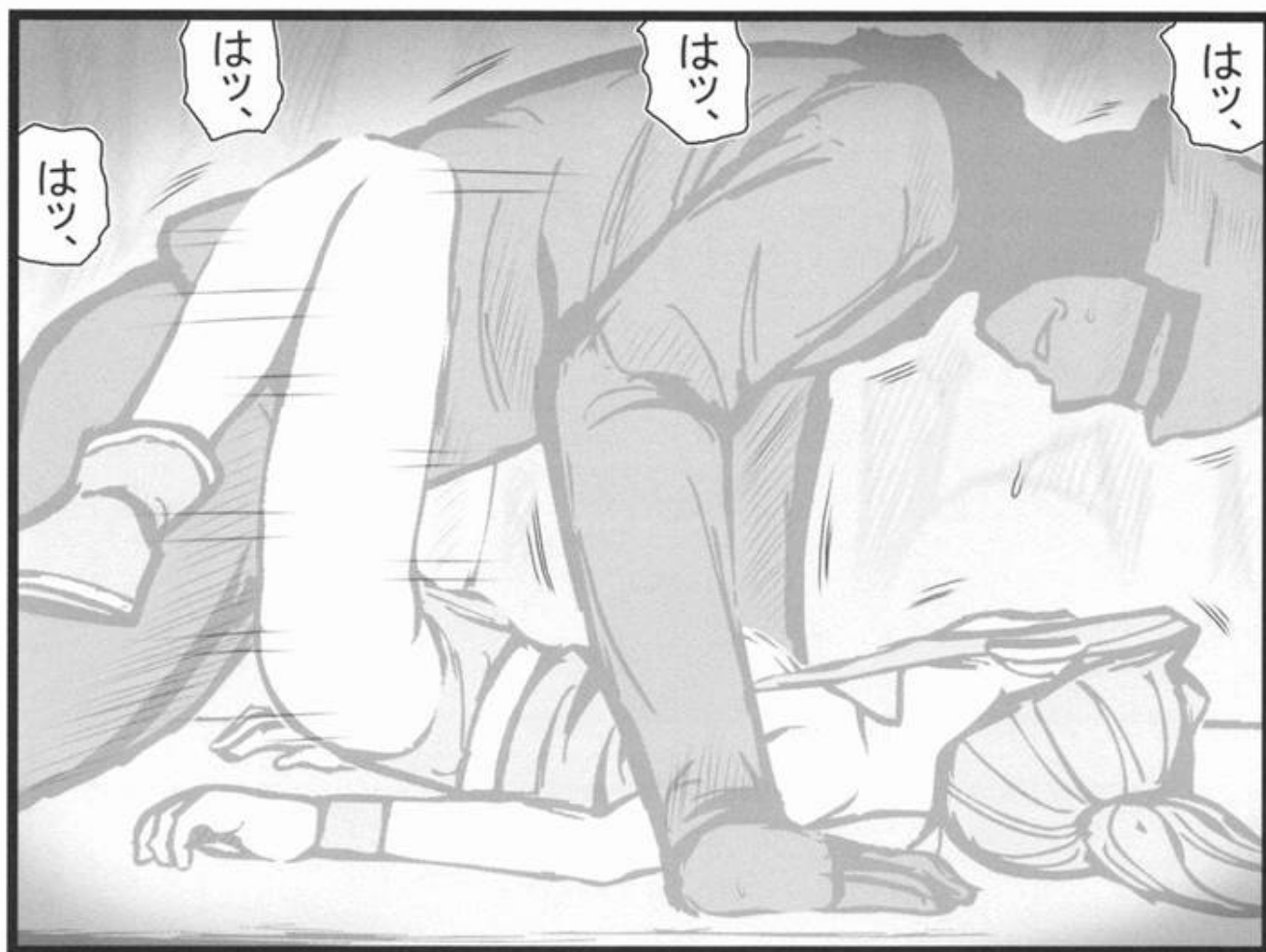


だ、
大丈夫
だろ。

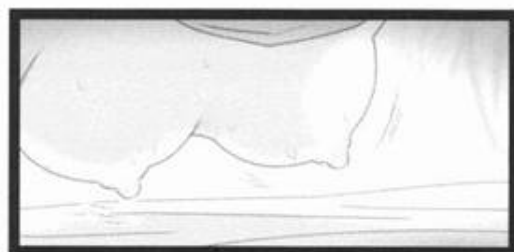
俺達の命令は
何でも
きくはずだ。

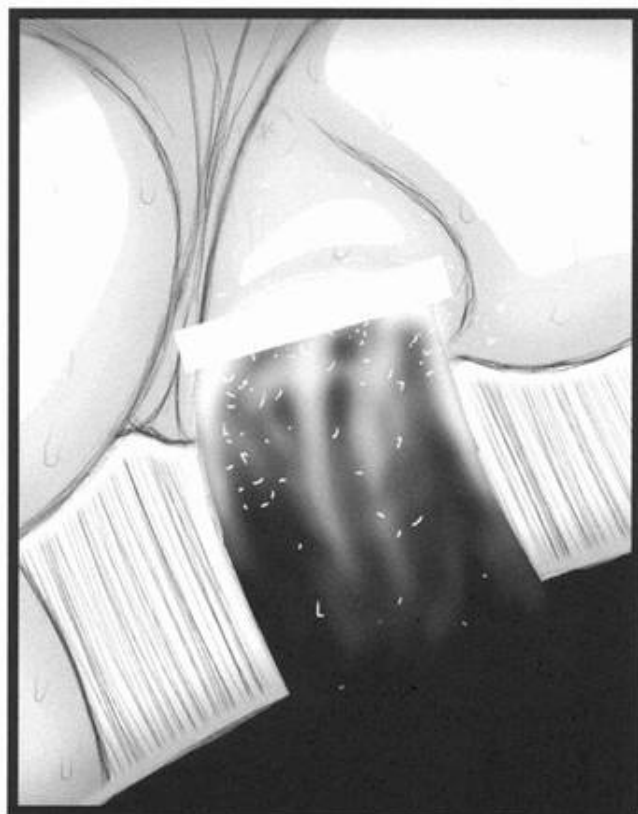


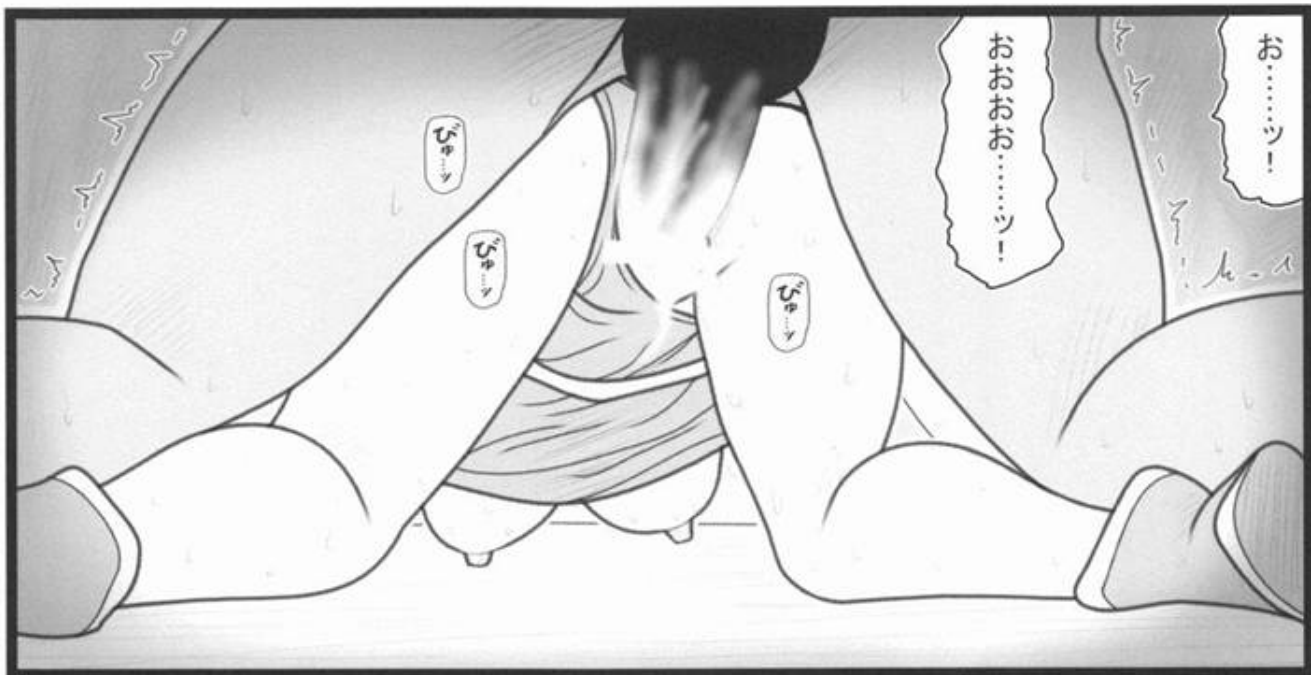


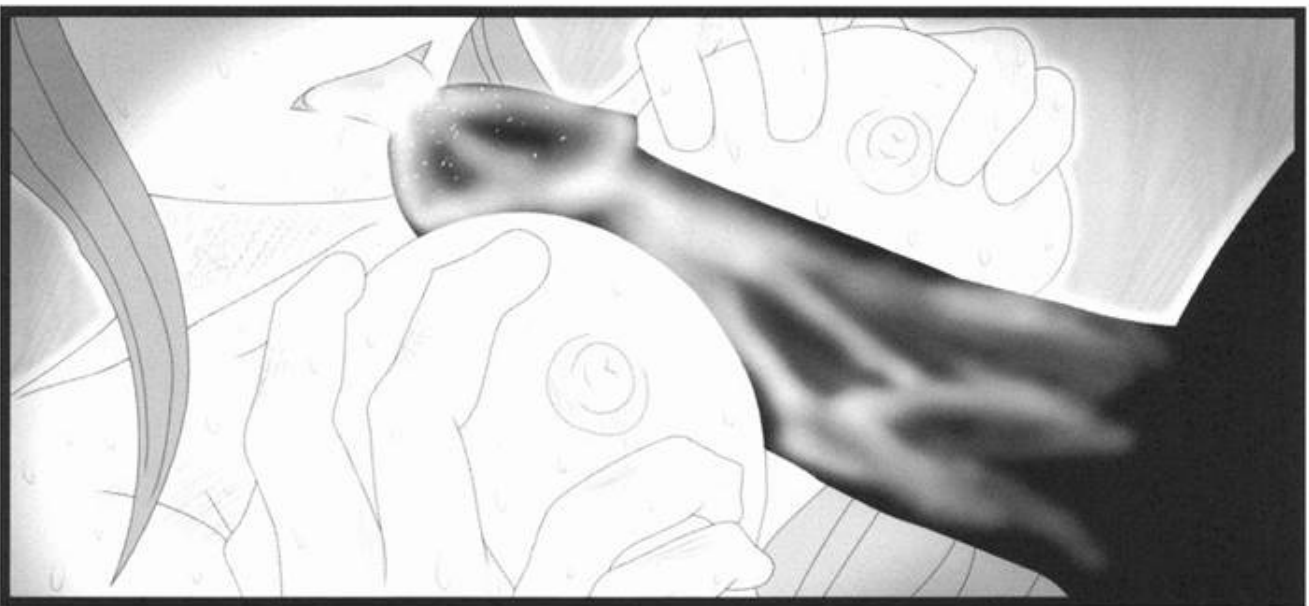


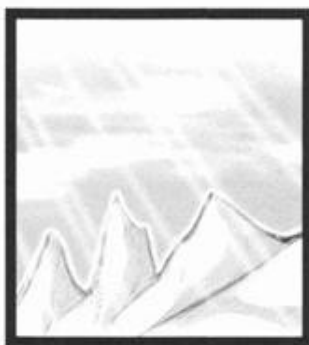














ふー……、
気持ち
良かった
ぜえ……♪

それじゃ
吹雪も
止んだ
ようだし、

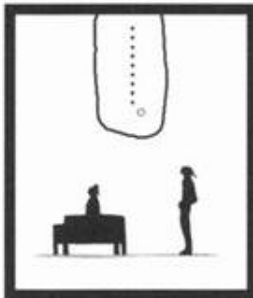
そろそろ
出発するぞ。

……



自分の事、
何か
わかるか？

目、
覚めたか？



……



まあ今まで
帝国に
操られてた
からな。
焦らず
ゆっくり
思い出せば
いいさ。



わからない……ッ！
記憶を何も
思い出せ
ない……ッ！



え？
白い
スライムか
何か
じゃないか？

それに何か
私の太ももに、
白くて
生温かい
液体が
ベトベトと。



慌てて
スポンを
直してるの？
いや、
ベルトが少し
ゆるくつてさ。



あの……、
ところで……

完♪

大 董 卓

